

IV 今後予想される長崎県、日本、世界を取り巻く環境変化

- 本章は、長崎県が推進している取組を含め、今後予想される長崎県、日本、世界を取り巻く環境変化について各種資料から抜粋したものである。

【世界の動き】

- 今後の世界の動きとしては、2020年代に次世代移動通信システム（5G）が実用化される見込みであり、現在の4Gの100倍とも言われ、これまで4Gで約5分かかっていた2時間程度の映画のダウンロードが、5Gなら3秒で済む計算となる。
- データを送る際の遅延時間が大幅に短くなると、自動運転や遠隔操縦など活用の幅が大きく広がる。このためIoTが一気に進む可能性がある。（出典：NIKKEI BUSINESS 2019.04.15）
- また2020年代には世界人口が80億人に到達し、2030年代には90億人にまで到達することが予想されており、世界全体の食料需要などが増大することが予想される。こうした状況から、高齢者向けサービスなど海外で拡大する市場への参入や、農水産物の海外輸出、インバウンド需要を取り込む機会が訪れる。

【日本の動き】

- 2027年に、リニア中央新幹線（品川～名古屋）間が開業し、2045年までにリニア中央新幹線（名古屋～大阪間）が開業する見込みであり、都市圏と地方圏の移動時間が短縮されることが予想される。
- 外国人旅行者が2030年には6千万人を超え、旅行消費額も15兆円を目標としており、インバウンド需要を取り込む機会が訪れる。
- 2035年には、ロボット産業の市場規模が9.7兆円へ膨らむことが予想されている。

【長崎の動き】

- 2022年に、九州新幹線西九州ルートが暫定開業し、都市圏との移動時間が短縮される。リニア中央新幹線との接続により、移動時間が飛行機並に短縮されることが予想される。
- また、IRの誘致や空港24時間化の推進などの取組が実現すれば、インバウンド需要も合わせて、さらなる交流人口の拡大が予想される。

今後予想される長崎県、日本、世界を取り巻く環境変化

時期	長崎の動き	日本の動き	世界の動き
2019	・ミライon図書館開館（大村市）（2019）	・新たな外国人受入制度（特定技能）の開始（2019）	
2020年代	・長崎MICE開業（2021） ・九州新幹線西九州ルート暫定開業（2022） ・長崎IR開業 ・V・ファーレン長崎 スタジアム建設（2023） ・高齢者人口がピーク（442千人、35%） ・県庁跡地「広場」と「交流・おもてなしの空間」完成予定（2025又は2024）	・東京オリンピック・パラリンピック開催（2020） ・訪日外国人旅行者4千万人（2020） 旅行消費額8兆円へ【目標】（2020） ・リニア中央新幹線（品川～名古屋）開業（2027）	・次世代移動通信システム（5G）実用化 ・世界人口が80億人に到達 ・シェアリングエコノミー市場の急成長 （2013：150億⇒2025：3,350億） ※現在の半導体市場と同規模 ・インドが人口で中国を抜き 世界1位へ
2030年代		・訪日外国人旅行者6千万人 旅行消費額15兆円へ【目標】 ・人工知能（AI）等による職業代替が進む ・公務員の定年延長 ・ロボット産業の市場規模が9.7兆円へ	・インドが生産年齢人口で中国を抜き世界1位へ ・世界人口が90億人に到達
2040年代	・生産年齢人口が過半数割れ（2040） （519千人、49%） ・東京とリニア及び新幹線で繋がり、 移動時間は飛行機並みに	・大半の自動車がEVや自動運転へ（2040） ・リニア中央新幹線（名古屋～大阪）開業	
【未定】	・長崎空港24時間化 ・西九州自動車道完成 ・九州新幹線西九州ルート全線開業		

※「日本の動き」「世界の動き」については、野村総合研究所グループ「NRI未来年表」等から抜粋